

# 産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

## 取組の概要

取組の概要 : 大豆面積拡大に対応した効率的収穫体制の確立  
計画作成主体 : 上士幌町農業再生協議会  
対象品目 : 大豆 (産地面積 : 274ha)  
主な取組主体 : 上士幌町農業協同組合  
成果目標 : 契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とする  
助成金の活用 : 生産支援事業 (普通型コンバイン) 状況

## ポイント

農協が主体となり、コントラクターで普通型コンバインを導入し、労働力軽減と適期収穫による品質向上を図る。  
このことにより、これまでブランドづくりを行ってきたコンバイン収穫向き品種「ハヤヒカリ」の面積拡大と併せて、契約栽培割合の10%以上増加を実現。

## 地区の概要



## 産地の現状と目標

現状:H27年度

作付面積:244ha  
生産数量:647t  
契約栽培の割合:57.8%

目標:H30年度

作付面積:274ha  
生産数量:726t  
契約栽培の割合:67.8%



## 推進体制

地域の関係者(上士幌町、農改センター十勝北部支所、JA上士幌町、畑作振興会等)が一体となり、事業を推進。

## 地域における独自の取組

主な取組

コンバイン収穫適性の高い褐目大豆「ハヤヒカリ」を早期に取り入れるとともに、ブランド化を図っている。

道・市町村単独事業

上士幌町コントラクター支援事業により、労働力不足の改善やコスト削減を図り、畑作農家の経営改善・発展を支援。

## 事業効果

コントラクターへの収穫機リース導入により、生産者の設備投資や労力の軽減、適期収穫による品質向上を図る。

併せて、これまでブランドづくりを行ってきた「ハヤヒカリ」の作付面積拡大を行い、契約栽培の割合を増加させ、大豆の産地強化を実現する。

~大豆の契約栽培率~

